

1. 社会・治安情勢

- (1) リオデジャネイロ州全域でけん銃や小銃、手榴弾等を使用した殺人、強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。

特に2016年以降、リオ州の財政破綻によって警察当局が治安対策のために必要な人的・物的対策を十分に整備することが困難となったこともあり、オリンピック・パラリンピックが終了した一昨年後半から急激に体感治安が悪化している。

- (2) 依然として貧困層の少年らによる「アハスタオン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件が市内中心部や海岸、幹線道路沿いで発生しており、治安当局もこれらの取締りを強化しているが、健全育成の方針を主眼とした少年法の影響により、逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまうなど、警察による取締りが治安改善に直結していない現状にある。

- (3) また、リオデジャネイロ市内及びその周辺に約1,000か所存在するといわれるファベラ（スラム街）を中心に敵対する麻薬密売組織間における抗争が激化するとともに、UPPをはじめとした治安当局と麻薬密売組織間における銃撃戦が頻発しており、流れ弾による一般市民の被害が後を絶たない。

さらに、幹線道路等においては、積荷を積載した車両を襲撃し、車両ごと強取する積荷強盗が多発しており、喫緊の課題となっている。

- (4) これら課題に対処するため、連邦政府による国家治安計画に基づき、昨年7月28日から総計10,240名から成る国軍兵士や国家治安軍、連邦道路警察官等がリオ州内へ投入され、薬物銃器・積荷強盗対策に従事するも、その根絶には至らず、本年2月16日以降、大統領令による連邦政府主導の治安対策が試みられているが、具体的成果には結びついていない。

- (5) リオ州政府としても、連邦政府主導の下、治安を担当する公安局が中心となり、治安回復に取り組んではいるものの、州の財政難による警察官新規採用の見送りや装備・資器材の故障、殉職・離職警察官の増加、組織的な汚職警察官の摘発等により警察力が低下する一方、凶悪犯罪は増加しており、犯罪の増加に歯止めを掛けられない状況にある。

- (6) また、長引く不況を背景として、リオ市内におけるホームレスの数も数年前と比較して激増しており、麻薬中毒者が街中を徘徊するなど、こうした状況が体感治安の悪化に拍車を掛けている一つの要因とも言える。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) リオ州公安局統計院（ISP）によれば、2018年上半期のリオ州内における殺人事件発生件数は、2,686件で、前年同期と比べて45件減少（-1.6%）している。

また、強盗事件発生件数は、12万1,746件で、前年同期と比べて1万1,022件増加(+9.9%)しており、特に、路上・携帯電話強盗の増加が著しい。

- (2) 第2四半期中、リオ市ラパ水道橋や大聖堂周辺などの観光名所において、邦人観光客が携帯電話機を窃取(ひったくり)される被害が続発しており、引き続き、路上における強窃盗事件に対する警戒が必要である。
- (3) このほか、麻薬密売組織間抗争を背景として、ファベラ周辺の治安が急激に悪化しており、この流れは、これまで比較的 안전と目されてきたリオ市南部地区においても例外ではなく、流れ弾等に対する細心の注意が必要である。

3. リオ州犯罪発生状況 2018年上半期 (対前年同期比増減数)

	リオ州	リオ市
殺人	2,686 (-45)	748 (-6)
強制性交等	2,626 (+296)	841 (+85)
商業施設強盗	3,601 (+523)	1,823 (+302)
住居侵入強盗	655 (+47)	222 (-30)
車両強盗	28,489 (+957)	13,478 (+326)
路上強盗	46,120 (+5,872)	23,518 (+1,679)
交通機関内強盗	7,673 (+466)	4,444 (+360)
携帯電話強盗	13,040 (+2,011)	7,220 (+1,029)
強盗総数	121,746 (+11,022)	63,517 (+3,842)
窃盗総数	71,986 (+3,107)	41,397 (-622)

4. リオ州犯罪発生状況 2018年7月 (対前年同月比増減数)

	リオ州	リオ市
殺人	408 (+38)	88 (-20)
強制性交等	419 (+48)	115 (-9)
商業施設強盗	500 (-136)	248 (-53)
住居侵入強盗	94 (-11)	30 (-21)
車両強盗	3,518 (-1,435)	1,509 (-928)
路上強盗	7,500 (-1,083)	3,761 (-751)
交通機関内強盗	1,319 (-237)	783 (-99)
携帯電話強盗	2,202 (-270)	1,281 (-107)
強盗総数	18,246 (-3,610)	9,312 (-2,509)
窃盗総数	11,678 (-792)	6,627 (-454)

5. リオ市南部犯罪発生状況 2018年7月 (前年同月比増減数)

【フラメンゴ・ボタフォゴ地区】

殺人	1 (±0)
商業施設強盗	17 (-8)
住居侵入強盗	1 (-4)
車両強盗	42 (+1)
路上強盗	160 (+6)
交通機関内強盗	5 (-25)
携帯電話強盗	52 (+3)
強盗総数	315 (-48)
窃盗総数	481 (-12)

【コパカバーナ地区】

殺人	0 (±0)
商業施設強盗	5 (-3)
住居侵入強盗	0 (-4)
車両強盗	2 (-1)
路上強盗	35 (-24)
交通機関内強盗	7 (±0)
携帯電話強盗	14 (-4)
強盗総数	85 (-37)
窃盗総数	484 (+4)

【イパネマ・レブロン地区】

殺人	0 (-2)
商業施設強盗	9 (-4)
住居侵入強盗	2 (-3)
車両強盗	4 (-2)
路上強盗	49 (-28)
交通機関内強盗	9 (-3)
携帯電話強盗	25 (-3)
強盗総数	118 (-46)
窃盗総数	345 (-7)

6. 一般事件等（邦人の安全に係るものを抜粋）

（1）『ビジガル（スラム街）』における銃撃戦の発生

8月14日（火）早朝から、リオ市南部サン・コンハド地区の『ビジガル（Vidigal）』において、リオ州軍警察と犯罪組織間における銃撃戦が発生し、ニーマイヤー大通り（AV. Niemeyer）などが閉鎖された。

- (2) ペニャ・アレマオン・マレ・スラム街における大規模掃討作戦の実施
8月20日(月)~22日(水)までの間、リオ市北部ペニャ・アレマオン・マレ・スラム街(Complexos da Penha, Alemão, Mare)において、陸軍等治安当局による大規模な掃討作戦が実施され、被疑者5名が死亡、軍人3名が殉職した旨報じられている(本年2月16日の連邦政府によるリオの治安対策開始以降、初の軍人殉職事案)。
- (3) ラランジェイラス地区『ロージャス・アメリカナス』における銃撃戦の発生
8月22日(水)午後9時ころ、リオ市ラランジェイラス地区『ロージャス・アメリカナス(Lojas Americanas)』において、4人組の強盗被疑者らと同店にて買い物中の軍警察官との間で銃撃戦が発生、被疑者4名のうち1名(38口径の回転式けん銃所持)が警察官からの銃撃を受けて負傷、ほか3名が現場から逃走した。
- (4) フラメンゴ地区『ロージャス・アメリカナス』における銃撃戦の発生
9月19日(水)午後3時頃、リオ市フラメンゴ地区マルケス・デ・アブランチス通り沿いの雑貨スーパー『ロージャス・アメリカナス(Lojas Americanas)』に対し、けん銃武装した3名の強盗集団が押し入り、店内の商品等を強取した後、現場から逃走した。犯人らは、逃走の途次、追尾中の同店警備員(28歳)に対して発砲し、同警備員1名が足に銃弾を受けて負傷、流れ弾が通行人(79歳)の胸部に命中し、同人が死亡した。

7. 邦人被害

(1) 窃盗事件(ひったくり)

被害者は、7月14日(土)午前8時30分頃、リオ市セントロ地区レプブリカ・ド・パラグアイ大通り(Av. República do Paraguai)を歩いていたところ、いきなり眼前に現れた被疑者2名に所携の携帯電話機1台を窃取された。

(2) 窃盗事件(ひったくり)

被害者は、9月8日(土)午前1時頃、リオ市コパカバーナ地区アトランチカ大通りを歩いていたところ(Av. Atlântica)、いきなり3人組の男が眼前に現れ、所携の携帯電話機や現金等を窃取された。

(3) 窃盗事件(ひったくり)

被害者は、9月11日(月)午前11時頃、リオ市セントロ地区カルデアール・カマラ公園において、所携の携帯電話機で周囲を撮影していたところ、い

きなり自転車に乗車して接近してきた少年に同携帯電話機を窃取された。

8. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

9. 誘拐・恐喝事件発生状況

邦人被害は認知していない。

2018年1月から7月までの間、リオ州内で短時間誘拐71件（7月中8件）、恐喝872件（7月中127件）が発生しており、いずれも高い水準で推移している。